

## 団長の独り言

1月15日(日)「疲れも吹き飛ぶ稽古」

前回の稽古は全くもつてお話にならなかつたので危機感を持った私は、激しい口調でダメを出し、厳しい稽古をおこなった。

それから約6日間経っての昨日、果たしてどうだろうか？緊張感を持って稽古場に到着すると、全メンバーはすでに顔を揃えている。

いつもの私ならば、稽古開始前にたわいもない雑談をして、みんながなんとなく笑顔になったところで稽古を始めるのだが、この日はそんなゆとりはない。開始時間ちょうどになったので、余計な話は一切せず、まず殺陣の稽古から。

動く前に、メンバーが撮ってくれた立ち回りの動画をみんなで見ながら、各自のダメな箇所を指摘し、その部分の抜き稽古を何度となく行うと、なんとか形になったので、今度は音に合わせ約2分弱の立ち回りを行うと、スピードが出てきて迫力も増してきたが、まだまだ：刀さばきを確認しながら何度となく繰り返すと、いい感じになる。

こうなると、もっとも立ち回りをやっていたところではあるけれど、立ち回りばかりやっているわけにもいかない

ので、流れ落ちる汗をぬぐい本稽古に入る。

役者達も前回の稽古で、さすがに危機感を持ったのだろう。

休憩もそこそこに、2幕の最初から演じてもらおうと、前回とは全然違う集中した芝居でスタートしたので、ちょうどだけホツとしつつ、次のシーン、次のシーンと、とにかく先へ先へと進めていく。稽古が始まる前は、かなり憂鬱で気の重たあーい状態で稽古場に來たけれど、皆さんの頑張りで迫力のある芝居が次から次へ現れたので、約3時間の稽古終了時には、清々しい気持ちで終える事が出来た。

そして本日、日曜日。

今年に入ってからDIYで製作していた組み立て式の稽古用テーブルがようやく完成したので、稽古場に持ち込む。以前も稽古用として折り畳み式のテーブルはあったけれど、そのテーブルは平野カーに積み込む際に積みづらかったので、「久美・美容室物語」で使用した舞台セットの廢材を利用して、ボルトで締め付ける形式の組み立てテーブルを作ろうと、昨年末に思いつき、今年に入ってから製作に取り掛かった。

天板は十数年前に上演した「人生芸夢」私の青空」の時に使用したもの

が倉庫に眠っていたのでそれを利用して、あとは足さえ作ればいいやぁと簡単に考えていたけれど、いやいや：：：舐めてました。

ビス(ドリルねじ)で、ガッチリ固定するだけならば、ここまで苦労しなかったのかもしれないが、組み立て式にしないといけないので、ドリルで穴をあけて、その穴にボルトを通して、ナットで締め付け固定するタイプにしようと考えたけれど、意外と大変！ちゃんと直角を取って、何度もバランスを測って穴をあけ、いざ組み立ててみるが：：：グラグラ。そこでまた穴をあけ直し、新たに木材を買ってきて下駄を履かすような足を追加で作り、場所によってボルトの太さや長さを微妙に変えなきゃいけない事が判明したので、何度もホームセンターに行つて買い直し、結局、3種類の長さや太さの違うボルトを計16本使い、ガッチリ立つテーブルをようやく完成させ、意気揚々と稽古場へと向かう。開始15分前、稽古場へ到着すると、なんと！！全員集合して真剣に稽古しているではないかぁ！「あれ！？俺、遅刻した？」と思わず時計を見直したが、確かに開始時間の15分前だ。そろそろ扉を開けて中に入るが、皆私が來た事に気づかないくらい真剣に、ある場面の稽古をしていた。

劇団活動も25年目だけど、数名が早めに集まって、打ち合わせのような自主稽古をしているって事はこれまでもあったけれど、全員でガッツリな自主稽古をやっているのは、恐らく劇団史上初めての事かもしれない。

そういえば確かに昨日の稽古終了時、恵ちゃんがみんなに呼び掛けてはいたけれど、それは「早めに来られる人は早めに来て少しでも稽古しましょう」ってな感じだったので、せいぜい2、3人が集まって、稽古っぽい事をやるんだろぅくらいに思っていたが、まさか全員が集合して、本稽古と同じ緊張感の中でシーン稽古をしているとは！

稽古を中断するのが申し訳ないほどだったけれど、稽古で使用する道具類やピアノを運び込まなきゃいけないし、私の渾身の作品であるテーブルの組み立て方もレクチャーしなきゃいけないので、自主稽古を終えていただき、みんなで手分けして道具類を運び込み、この日は休憩時間を取るのも惜しんで、とても有意義で、かなり前進した稽古になったのと言うまでもない。

あつ！テーブル！「これ稽古用じゃなくて、本番でこれ使いましょよぉ」とまで言ってもらえるくらい好評だったのは、何よりだった。

